

KOND STYLE

新型コロナウイルスの流行から求められた「新しい生活様式」は、あらゆる暮らしの変化を余儀なくされ、それは「働く」ことも例外ではありません。職場で「密、な状況になることを防いだり、通勤による感染リスクを避ける方法として、テレワークが急速に普及しました。この中で地方企業はどのようにして、社会情勢の激動に負けることのない経営体制を整えれば良いのでしょうか。DX(デジタルトランスフォーメーション)という視点から、オフィス環境や働き方、企業経営の変革を提唱する株式会社近藤商会の代表取締役社長 相川氏に、お話を伺いました。



11月からのオフィスツアー開始に先立ちご紹介いただいたサテライトオフィス[SORO]

「働き方改革」
変化の激しい世界で、これまでのビジネス慣習を踏襲するだけでは、企業の存続すら危うい

人口減・コロナ禍、大規模災害など目まぐるしく状況が変わる令和の新时代。過去に経験のないような大きな環境変化のうねりに、先の読めない不安感や行き詰まり感が漂っています。

いま、日本の企業が急速な変化に対応しながら世界で競争力を保つため、DX推進が官民を挙げて叫ばれています。これまでも人口減と働き手不足から、ITによる業務の置き換えと効率化が進められ、モバイル機器が当たり前に使われるようになりました。DXはIT化が目的ではなく、事業の根幹をなすビジネスモデルや経営戦略そのものに、デジタル技術を活用して「企業の稼ぐ力」を強化し、経済

を成長させていくことがテーマとなります。

決裁文書や契約書への押印、ビジネスの礼儀作法など日本独自の慣習があり、現実的にはクリアしなければならぬ課題が多くありますが、日本の企業はそうした岐路に立っていると思います。

「新しい生活様式」の求めに、企業も変わらなければ...
近藤商会の取り組みはオフィス、自宅以外の働く場「SORO」

「新しい生活様式」が働き方にも求められる中、キーワードになっているテレワークにもメリット、デメリットがあります。通勤負担を軽減し、雑音の少ない環境で仕事ができる一方で、労働時間管理があまりいまいになり、社員全員が集中できる環境にあるとは限らず、本当に成果が上がっているのか疑問を持つ経営者もおられると思います。また業務データが入った会社のパソコンや書類の持ち出しは、セキュリティ対策やコンプライアンス上の問題があります。やはり3密を避けながら社員の持つパフォーマンスを発揮させ、生産性を高める環境の整備が急務です。

当社では、密を避けた上でデジタル環境を整い、空調、音響など心身の健康にも配慮されている、そういう働く場が必要と考え、オフィスでも自宅でもない、第3の「働く場」として「SORO」を作りました。「SORO」は「Solo」「Open」「Recharge」「Office」の4つをキーワードとしています。本社オフィ



オフィス環境の整備はあくまでも「働き方の引き出しの一つ」と語る相川氏



立ちながらでも仕事が可能で、少人数での打ち合わせにも最適なスペースも

スと変わらない仕事を個室ででき、社員が自由に使える開かれた場。さらに心身のパフォーマンスを高める空間環境にも配慮した、新発想のオフィスです。

働き方は「テレワーク」から「ワーケーション」へ

「サテライトオフィス」が「地方分散」を促進し、地域を活性化させる

現在、東京では中堅以上の企業の過半数がテレワークを取り入れており、会社以外で仕事をするのが当たり前の社会になりつつあります。その先には、地方都市のサテライトオフィスが重要な位置づけになる時代が、必ずやって来ると考えます。クラウドの活用で本社の業務がどこにあっても機能すれば、災害に強く事業継続性が高い会社となります。東京や大阪が猛暑となる夏場、一時的なワーケーションを実施すれば社員の健康を守り、大都市の省エネルギーも実現可能です。

北海道、特に道南地域は住みやすい気候で、食事はおいしく、オフの時間にはゴルフやスキー、釣り、キャンプなど自然環境を生かしたさまざまな趣味を満喫できます。住環境コストも都会の半分以下。大都市との交通アクセスも便利です。

サテライトオフィスの設置によりワーケーションの受け入れ環境を整備し、さらに、大都市圏からの移住を誘致することで、今後、「地方分散」が進んでいくでしょう。そうすることで、北海道・道南地域の宿泊業や飲食業をはじめ、多くの業種にとって新ビジネスの機会が生まれるはず。そこに「SORO」のノウハウが役に立てると確信しています。

オフィス変革のノウハウ、生きた情報を顧客の皆さまへ「SORO」を体感するオフィスツアー

「SORO」のあらゆる仕様に、社員のパフォーマンスを引き出す仕組みがあります。高度なセキュリティを確保し、クラウドやグループウェアなどさまざまなデジタルツールで運用しています。10月から社員の利用が始まり、社員アンケートを実施したところ、「業務効率が10%以上向上した」「リフレッシュして作業ができた」という反応がありました。利用社員の約6割は「ベルフェイス(Web商談システム)などを活用したインサイドワークにより顧客対応が増加した」と答え、約9割は「普段より集中できた」と充実感を語るなど、「SORO」導入によるこの結果には手応えを感じております。

詳細に関しては、当社で実践している独自のノウハウや仕組みをご紹介するオフィスツアーでぜひご体感ください。

そのほかにも、私たちは発想も環境が変わると考え、アイデア出しをする環境を整えました。上司・部下、先輩・後輩など、

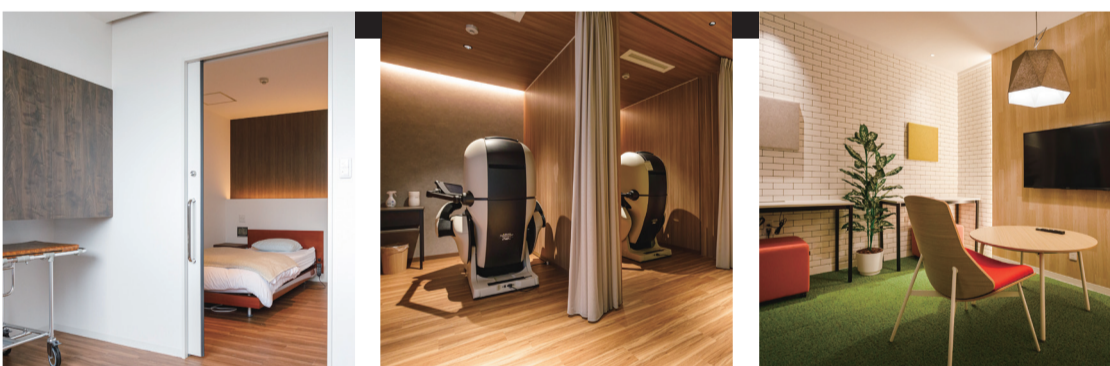
上下関係に関わらず自由な雰囲気でのミーティングができるスペースやホワイトボードを壁面に設置し、立ちながら打ち合わせができるスペースなど、画一的でない空間が変化に対応する多様なアイデアを生みます。社員からさまざまなアイデアが出るのが理想で、私自身も意見を言いますが、皆の意見の違いを尊重しながら着地点を見つけています。正解を探さずとも「変えよう」という意思を持った集団であることを目指しています。

また、心身をリフレッシュする休憩スペースなども用意しています。社員が健康に働ける環境を整え、会社の業績向上につながる「健康経営」の取り組みも重要です。社員が少数精鋭へと成長できる環境づくりは、人口減が進む中、企業として生き残るために、働き方改革を進める上でこれから多くの企業が直面する課題です。

環境変化に常に対応して永続発展することが企業のテーマです。私自身、常に壁にぶつかりながら改革を積み重ねてきました。

働き方改革という切り口で、当社が実践しているノウハウが顧客の皆さまにおける経営変革のお役に立てれば幸いです。この苦境下にあっても前を向く経営者の力になる事で、微力ながら日本経済の発展に貢献したいと考えます。

私たちは15年前から、将来の生き残りを賭けた改革に取り組んできました。情報系と業務系



社員の健康と体調を守る救護室「Recovery」
十分な休息がとれるリラクゼーションルーム「Oazo」
落ちついた雰囲気のある休憩室「Smile」メンタルヘルスルームとしても利用される



上司・部下、先輩・後輩など役割に関係なく活発な議論ができる「Flat」

会社見学
(オフィスツアー)の
お申し込みは
こちらから